

地域子育て支援拠点研修〈熊本開催〉

《開催概要》

- 開催日：平成30年12月2日（日）10：00～16：00
- 会場：くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール
（熊本市中央区手取本町8番9号テトリアくまもとビル10階）
- 主催：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援：（社福）全国社会福祉協議会・熊本県・熊本市
- 協力：NPO法人子育て談話室
- 参加人数：155名



＜プログラム＞

■開会挨拶

奥山千鶴子 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長



■プログラム1 基調報告

「地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業」

【講師】大津昭夫さん 厚生労働省子ども家庭局子育て支援課 課長補佐

1. 地域子育て支援拠点事業

4つの基本事業を実施していく中で地域の子育て家庭が直面している課題が見えてくる。地域の親、子どもへの支援や地域とのつながり(子育てを支える地域力の向上)が大切である。

2. 利用者支援事業

子育て家庭や妊婦が、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の関係機関を円滑に利用できるように、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、関係機関との連絡調整、連携・協働の体制づくりを行う。

子育て世代包括支援センターは妊娠期から子育て期にわたるまで、切れ目なく支援することをシステムとして実施していく事が大事である。

3. 今後の課題

地域子育て支援拠点事業の普及促進と地域での活動展開、拠点の運営状況把握や各地域でできていること・必要なことの把握、人材確保・養成と資質の向上を目指す。

4. 幼児教育の無償化

2019年10月から認可、認可外を問わず3歳から5歳までの全ての子ども、及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもについて幼稚園、保育所、認定子ども園に加え、認可外保育施設や子ども・子育て支援法に基づく一時預かり事業、病児保育事業、ファミリー・サポートセンター事業などの無償化措置が行われる。詳細について、なるべく早くお知らせできるように調整中。



■プログラム2 講義

「ガイドラインをもとに地域子育て支援拠点事業の基本4事業を深める」

【講師】渡辺 顕一郎さん 日本福祉大学 教授



現代の子育ては核家族が多く、先輩世代のつながりや地域とのつながりが希薄なため、世代を超えた子育ての経験の受け渡しが難しく、また周囲の支えがない中で孤立する傾向が高まっている。こうして子育ての役割が母親に集中し、負担を一身に背負うほど、子育てがたつらくなっている側面もある。

調査研究によれば、拠点を利用する多くの母親は親同士知り合いたいと願っており、生まれ育った町にいてもその傾向が強い。子育ては母親だけではなく、親同士の支え合いや、地域の支え等によって皆で行うものである。

支えが必要だが現実には難しいのが現在の子育ての現状である。このことは児童虐待等の問題の背景要因にもなっている。虐待は環境的要因、親の要因、子どもの要因などが複雑に重なり合うほど生じやすいが、身近に寄り添い相談できる人が存在していればリスクを下げることが可能である。

そのため身近な地域における支援が必要であり、このような予防的支援を担うのがひろばでありスタッフの役割として求められる。基本事業をもとに水平対等な身近な関係を築き地域につないでいくことが大切である。

■プログラム3 講義

「多様な困難を抱えた家庭への支援と地域子育て支援拠点への期待」

【講師】後藤 慎司さん 大分県子ども・女性相談支援センター所長



1. 子ども家庭支援の中での連携

子ども家庭支援の系統図を示し、それぞれの役割と協働について説明があった。その中で、児童相談所を中心とした社会的養護は、市町村の児童家庭相談や子育て支援と一連につながるものであり、密接に連携することが大事で、子ども家庭支援の大枠の中で、みなさんと私は、共につながっている。そして、子どもが地域で安心して暮らし続けていられるよう一体的な支援を行い、子育て支援とリンクしていくことが大事だと話された。

2. 多様な困難を抱えた家庭支援

いろいろな子ども、親がいて、いろいろな家族・家庭があり、どの家庭もそれぞれ何らかの課題を抱えている。その家庭に対して各機関が協議しつつ、ニーズ等に応じて適時適切に役割分担をしながらトータルに支援すること。また、早い段階から家庭に応じた支援が必要で、早めに次の機関につなぎ相談していくことが重要である。

3. 地域子育て支援拠点への期待

乳幼児期は早いうちからの家族支援が重要で、私たち子育て支援者が、当事者と近い立場から関係を作り、仲良くなり、ニーズに沿った支援を大事にすること。そして、支援者の対当事者の立ち位置を意識し、できる支援をできるだけ。

4. まとめにかえて

大切にしている3つの「ション」と3つの「ワーク」を紹介。

①ミッション（使命 何のためにやるか）②パッション（情熱をもってできるか）③アクション（動く 具体的な行動）

①フットワーク（自分が動く）②チームワーク（仲間、組織内の連携）③ネットワーク（機関を超えたネットワーク 市町村など）

これにポジション（自分の立ち位置）を常に意識して支援をしている。

■プログラム4 パネルディスカッション

「子育て家庭の現状を踏まえた支援を考える」

【パネリスト】塚本明子さん おおくらの森保育園 玉名市地域子育て支援センター
森のひろば ログさんち センター長

柴田恒美さん NPO 法人子育て談話室 理事長

小川由美さん NPO 法人アンジュ・ママン 施設長

【コメンテーター】後藤慎司さん 大分県こども・女性相談支援センター 所長

渡辺颯一郎さん 日本福祉大学 教授

【コーディネーター】奥山千鶴子 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長

【話題提供】塚本明子さん おおくらの森保育園 玉名市地域子育て支援センター
森のひろば ログさんち センター長

ログさんちでは、体験型活動を通じた支援、「こそだてのわ」ネットワーク、母親たちの成長とあたたかい支えあいの連鎖の3つをポイントとして活動している。

利用者支援事業では、敷居の低い場所で気軽に相談してもらうようにしている。地域連携では、玉名市子育てネットワーク、玉名市子育て支援課担当者と連携協働し、一体的な運営体制を構築している。1市3町村からなるネットワーク「こそだてのわ」の運営は11年目。お互い顔の見える関係、共感しあえる仲間作りができ、支援者の支えにもなっている。拠点を卒業した母親たちが「地域」となりボランティアとして協力してくれるなど、支援者も支援を受ける側もお互いに喜びを感じる事業になっていくことが望ましいと思っている。

拠点で利用者支援事業を実施する場合、専門員が1名だと利用者支援と地域連携のバランスが難しい。拠点スタッフとのチームワークで成り立っているが、今後は人材育成も課題。



【話題提供】柴田恒美さん NPO 法人子育て談話室 理事長

現在 嘉島町、御船町、甲佐町、熊本市北区植木町の4ヶ所で拠点事業を行っている。

ひろばは同じ建物の中で複数の事業を実施しているため、ニーズの把握ができ利用者支援につながっている。また、関係機関連絡会などネットワークを通し支援に繋ぐことかできた事例をまじえて、地域で安心して子育て、子育てができていることを紹介。



【話題提供】小川由美さん NPO 法人アンジュ・ママン 施設長

現代の子育て家庭の背景（核家族の増加、地域のネットワーク力の低下）をうけ、様々な子育て支援事業を地域と連携しながら活動している。子育て支援拠点事業に始まり、地域子育てサポート事業、病後児保育事業、利用者支援事業、一時預かり事業、ホームスタートなど、困ったら頼れる人や制度を作り安心を感じながら生活できる地域を作ってきた。

拠点の花っこルームでは同じ建物に行政機関があり連携が取れているため、支援の効果がでているが、これからもいろいろな事業を通じ、居場所機能の充実を念頭に活動を続けていきたい。



【コメンテーターより】後藤慎司さん 大分県こども・女性相談支援センター 所長
今まで家庭から拠点、拠点から市町村、市町村から児童相談所へと相談通告は片方向だったが、法改正により、逆方向も可能となった。逆方向の相談については、断る事もできる事を知っておいてほしい。これからも共に「できしこ」で！
※できしこ:「できたらできただけ。できなかったらできなかったでしょうがない。できることをできるだけ」という意味



【コメンテーターより】渡辺颯一郎さん 日本福祉大学 教授
病院には総合診療科という包括的医療を行う科がある。それは子育て支援や利用者支援と同じではないか。訴えをよく聞くことで、背景がよく見え、問題も見えてくる。必要な機関へつないでいく拠点の重要な役割である。必要な機関との連携を作っていくことが大切だ。



【コーディネーター】奥山千鶴子 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長
実践報告にもあった通り、今後は市町を越えた広域連携も必要だろうと思う。これからは、母子健康包括支援センターとの連携等妊娠期からの切れ目ない支援がより重要だ。



■ 終了挨拶

小川由美 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事

